

高尾山山頂から発信！

# のぶすま

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。

vol.53 季刊  
2018年秋号

## Twitterでふりかえる 高尾山ニュース！

2018年の4月より、Twitter・Facebookをはじめました！  
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。  
では、7月～9月の間にあがったツイートの中から、注目のニュースをご紹介します。

今年はキノコが少ないらしい… (9/15)



今年は、春の長雨や梅雨が短かったことが影響して、例年よりもキノコが少ないようです。確かに、赤く目立ちやすいはずのタマゴタケなどもあまり見られなかったように思います。しかし、元々高尾山はキノコがとても多い山。意識して歩けば、様々な種類のキノコに出会うことができます。色や形に加え、どこから生えてきているかなどの周りの環境にもぜひ注目いただき、キノコ観察をお楽しみ下さい！

メグスリノキ



チドリノキ



カジカエデ



エンコウカエデ



ミツデカエデ



これ、みくんなカエデ。

高尾山の秋を彩るカエデ。薬王院の寺紋にも描かれるなど、カエデは昔から人々の高尾山への印象の中に深く刻まれている存在です。しかし、ここに描かれている葉が全てカエデだということに、驚いている方も多いのではないのでしょうか。  
\*16種のカエデの仲間が生育する高尾山で、知られざるカエデの魅力に触れてみませんか。

ウリハダカエデ



オニイタヤ



イロハモミジ



ウリカエデ



オオモミジ



※16種 参考資料：「八王子市動植物目録（2016 八王子市）」  
(他：トウカエデ、ホンエカエデ、ヒトツバカエデ、ハウチハカエデ、コハウチハカエデ、イトマキイタヤ)

## たかおさん

「みにくいカエデの子」の巻



作：むらかみ/絵：うめだ

「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて準備しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

## 解説員 いらむ vol.15

### 通勤のスタイル

皆さんは通勤時間をどの様に過ごしていますか？私は以前、車で通勤していたのですが、今年の春からビジターセンターで働きはじめると、通勤が登山へと変わりました。  
よく来館者の方から通勤方法について聞かれ、お答えする度に「大変ですね」と言われて頂くのですが、私はこの時間がとても気に入っています。

先輩スタッフと一緒に登っていると驚かされることも多くあります。例えば、五感が鋭いことです。枯れ枝や木の葉に擬態しているナナフシやオオエグリバ(蛾の成虫)を一瞬で見つけたり、ヤブサメ(野鳥)やヤブキリ(昆虫)の声をいとも簡単に聞き分けるなどなど。更には、山内に漂うカツラやカラスザンショウの匂いについて早く気付くなど、その度に「なんだ！この人たちは？」と思うのです。そして、いかに私が普段何気なく歩いており、見過ごしている事が沢山あるということに気付かされました。

そのため、ナナフシが擬態しているようなよく似た色の枝を探したり、霧がかかった山内では野鳥に出会えるチャンスなので、できるだけ音を立てないように歩いたりしました。すると少しずつですが、見つけられなかった生き物が発見できるようになりました。こんな時は心の中で渾身のガッツポーズを決めています。

これからも五感をフルに使って、周りの自然に意識を集中させながら、新しい出会いと発見をしていきたいと思っています。

〈解説員 おざき〉

## 高尾山とカエデ

ケーブルカーの待ち時間は最大2時間

高尾山が1年で最もにぎわう、紅葉シーズン。様々なメディアが高尾山の紅葉を取り上げ、休日は大変混雑します。見頃を迎える11月中旬～下旬は、平日の来山を心よりオススメします…。

↓山頂広場の混雑の様子



### 薬王院の寺紋はカエデの葉

1300年前、行基菩薩により開山された高尾山薬王院有喜寺。そのシンボルとなる寺紋には、向き合った3枚のカエデの葉が描かれています。建物などの様々な場所に刻まれていますので、ぜひ探してみてください。





# 高尾山はいつから昆虫愛好家の聖地だったのか2

高尾山の名を付けられたタカオメダカカミキリの発見から、高尾山の昆虫と人の関わりを覗いてみましょう。

高尾山は都心部からの交通の便が良く、自然も保たれているため昆虫愛好家の中では古くから昆虫の採集地として有名な山でした。約5000種もの昆虫が生息していると言われるようになったのも、長い年月をかけた多くの愛好家たちによる発見の積み重ねの賜物とも言えます。

愛好家たちが、この山を訪れるようになったのはいつからなのでしょう。

高尾山の昆虫について書かれた報告文の中には、今から約120年も前の、1885年(明治18年)頃のものがあるそうです。これほどの長い間、人々が昆虫を調べてきた高尾山は、ここから発見され、新種として発表された昆虫が数多くいます。高尾山周辺から発見された昆虫のうち、学名や和名に高尾周辺にちなんだ名が付けられた種類は約30種もいます。そのうちのひとつにタカオメダカカミキリという学名も *Stenomalus takaoanus* と高尾山にちなんだ名がつけられています。このカミキリムシは、体長が4ミリ程度しかなくとも小さな昆虫です。1952年5月25日に自然研究路4号路のコゴメウツギの花から見つかり、大林一夫氏によって1958年に新種として発表されました。その後の調査で、高尾山に固有な種というわけではなく全国的に分布する種

であることが分かってきました。また、幼虫はブナを食べることも知られるようになりました。小さなカミキリムシとはいえ、全国的に分布する種が、なぜ高尾山から最初に発見されたのか、その理由として昔から高尾山が昆虫愛好家にとって聖地であり、多くの人が訪れていたということが挙げられると考えられます。

昆虫には、まだ発見されていない種類や、どんな生態を持つかわからないものが数多く残されています。愛好家達の多くは、まだ誰も知らない未知の発見にロマンを感じ、好奇心の赴くままに昆虫たちと向き合ってきたのでしょう。高尾山に昆虫愛好家が訪れるようになって100年以上が経ちましたが、現在も子どもから大人まで昆虫を観察しに来山される方々がたくさんいます。未知の発見を求める気持ちは、ずっと昔から同じなのではないでしょうか。



実物大 4mm

タカオメダカカミキリ

〈解説員 ふくざわ〉

解説員の



vol.11

ウソ

哀愁漂わす口笛名人!

※嘘ではありません



大きさは約16cm スズメよりも一回り大きい

山内を歩いていると、どこからか口笛のような音が聞こえてきませんか?

もしかすると、この鳥が正体かもしれない。昔は口笛のことを「うそ」といい、それが名前の由来となって、親しまれてきました。可愛らしい姿とどこか寂し気な鳴き声は、何とも愛おしいです。

見られる時期：11月～3月  
見られる場所：1号路、3号路、5号路、山頂  
鳴き声：フイーフイー

〈解説員 こばやし〉



裂片には、ふつう1~2の大歯牙(葉縁の深い切れ込み)がある

## 牧野富太郎が高尾山で発見・命名 ヤグルマカエデ

植物学者で有名な、牧野富太郎が1903年に高尾山で発見し命名したカエデ。現在ではウラゲエンコウカエデと区別されないことが多いようです。解説員内では、未だ見つけられたことがないので、ぜひ探し出して観察したい!

## メグスリノキの葉と実

江戸時代前より、眼病予防などに用いられたとされる木。注目は、3つの小葉に分かれた葉と、高尾山内において、ナンバーワンの大きさを誇る立派な実です(ちなみに、日本カエデ界におけるナンバーワンはテツカエデ)。しかし、高尾山のメグスリノキは結実の確率がすこぶる少なく、探すのに一苦労。木は金比羅台や、ケーブルカー高尾山駅を降りてすぐの霞台園地などで見ることができ

## ミツデカエデ

この葉の形ゆえ、私はタネを見るまでなかなかカエデの仲間であることに気づきませんでした。ですが、一度認識しだすとあるではありませんか、高尾山にたくさん! ぜひ探してみてください。



こちらもメグスリノキ同様 3出複葉

## カエデの花

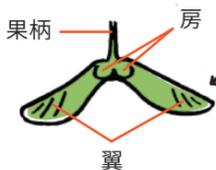
カエデの花は4月～6月頃咲きます。赤や黄、黄緑色などの小さな花が、吊り下がるようにして咲く様子はなんとも言えぬ愛らしさ! オスメは、真っ赤な花をつけるイロハモミジと、小さく繊細な花をつけるチドリノキ。



## カエデの特徴は2つ

カエデの仲間とは、ムクロジ科カエデ属に含まれる種をさし、日本には27種※確認されています。カエデ属の植物学的特徴は大きく2つ!

- ①葉が対生 ②果実に2つの翼



熟すと2つに分裂し、風に乗ってクルクルと回りながら落下する!

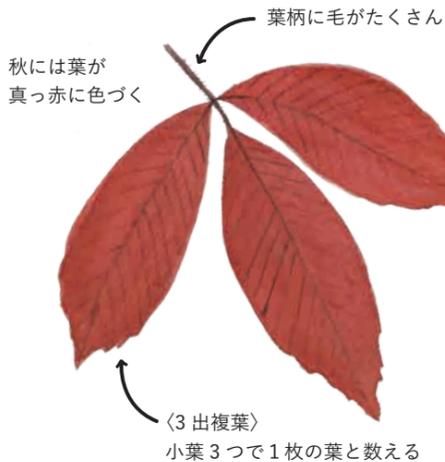
※参考資料:「カエデ識別ハンドブック(文一総合出版)」

これまで「カエデ科」に属していたカエデの仲間は、最近になって「ムクロジ科」へ編入となりました! 分類学に置ける、DNA解析の技術は日々進歩しているんですね。



のぶすま君

## 注目してほしいカエデの魅力



秋には葉が真っ赤に色づく

(3出複葉) 小葉3つで1枚の葉と数える

日本文化とはもとより、高尾山とも関係の深いカエデ。とても身近な存在であるがゆえに、その奥を覗く機会がなかなかないので、私自身もカエデについて深く知りたいと思ったのは、高尾ビジターセンターに勤務してからのことでした。はじめてクルクル回るカエデの実を見たときが、その構造の面白さと、カエデの仲間の共通性を知るきっかけになりました。そして、その共通性をたどり、枝分かれしながら繋がっていくカエデの仲間の特徴をよく観察していくと、次々と新しい発見が...! 来年の春はカエデの花に注目し、その微妙な形の違いを見比べてみたいと思っています。 〈解説員 うめだ〉